

## 「A I時代に生きる私たちへ」

伊東市立北中学校三年 植嶋 南帆

みなさんには、周りが見えなくなるほど熱中する趣味はありますか。私にとってそれは、絵を描くことです。私は、小さい頃から、紙とペンがあれば授業中でも描きだしてしまうような子でした。中学校では、美術部に入りました。描けば描くほど、もっとうまくなりたい、将来は少しでもいいからイラストの仕事がしたい、と考えるようになりました。そして、誰かに見てほしいという思いも強くなり、インターネットにイラストを投稿したらどんな反応が返ってくるのか気になりました。

そんなとき、A Iが描いたイラストが、私の数百倍「いいね」をもらっている投稿を目にしました。それを見た私に沸き起こった感情は悔しさです。まだプロには程遠いものの、私だって努力をしてきたつもりです。それなのに、A I技術で描いたイラストの方が賞賛されている状況が許せませんでした。それと同時に不安も抱きました。将来イラストレーターの仕事がなくなっていたら、私は何をすればよいのだろう、と。

近年、A Iの発達によりA Iがイラストを生成するシステムが作られました。そのイラストは、プロと比べても遜色ないレベルです。A Iの発展はどんどん進み、今やほとんどの仕事は将来A Iがすることになる、と言われていています。A Iの発展は必ずしも悪いことではありません。社会をより便利にするために欠かせないものです。しかし、近い将来、A Iが人間に取って代わるだろうと言われている仕事がたくさんあります。例えば、イラストレーターです。A Iの技術を使えば、会社からイラストレーターに依頼する必要がなくなります。また、A Iのほうが正確な判断ができて、手先も器用だという理由で、医者や薬剤師がなくなる可能性もあります。アナウンサーや声優も、A Iのほうが自分の思い通りに編集できて使いやすいので、人間がする仕事ではなくなるかもしれません。A Iができる仕事は思ったよりも多く、人間にしかできない仕事は思ったよりも少ないのです。なんだか悲しくなりませんか。

しかし、私たち人間にしかないものもあるのです。それは、「創造力」です。ひらめきがあるかないかが最大の違いだと思います。人間がやっている手間のかかる仕事はA Iに任せ、人間はA Iにはできない、新たなものを創造する仕事に力を入れることで、A Iと人間がうまく共存する社会になるのだと思います。

では、A Iでもできそうな仕事を、どうしたら人間にしかできない仕事にできるでしょうか。私が目指しているイラストレーターという仕事は、お客様から絵を描いてほしいという依頼を受け、絵を描く仕事です。絵を描く、と聞くと創造性のある仕事なので人間にしかできない仕事だと思っていましたが、そうでもありません。頼まれた絵を描くだけなら、A Iでもできるようになりました。現在インターネットには、出力されたA Iイラストがたくさん投稿されています。依頼を受けるだけなら、A Iのほうが早く仕事を終わらせられます。一方、私たちにしかできないことは、依頼されたものに工夫を施し、さらに

良い形でお客様に提供することです。そのためには、コミュニケーション能力が求められます。言われたことだけをやるのではなく、コミュニケーションをとって相手に寄り添いながら仕事をするのは、人間の方がはるかに得意です。

AIにはない、「創造力」と「コミュニケーション能力」、これらを人間の武器として様々な分野に生かすことで、人間が主体となる仕事が増えるのではないかと思います。今後、AIがさらに進化すると、私たちが社会人になったときに求められるスキルも、より難しいものになると思います。それを悲観するのではなく、新たな時代を築き、未来を生きる人間として、努力し続けたいです。人間とAIがよりよい形で共存する社会はそう遠くありません。その社会で、私は夢を叶え、自分の人生を切り拓いていきたいです。